

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立山田緑地
	所在地	北九州市小倉北区山田町
指定管理施設	名 称	北九州市ほたる館
	所在地	北九州市小倉北区熊谷二丁目 5 番 1 号
指定管理者 (自己評価者)	名 称	九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体
	所在地	北九州市小倉北区大島二丁目 10 番 1 号
指定期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 12 年 3 月 31 日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

<山田緑地>

企画提案事業	応募時提案 (□にレ 点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
開園 30 周年記念イベント	☒	○	
山田の森フェスタ	☒	○	
夕涼みイベント	☒	○	
もりの観察会	☒	○	
生き物調査	☒	○	
自然観察ガイドウォーク、生き物観察会	☒	○	
両生類産卵まつり	☒	○	
森づくり体験	☒	○	
コドラート植生調査	☒	×	5 年に 1 度の調査（令和 10 年度の予定）
生き物ふれあい展示	☒	○	
野草・生き物写真・水彩画展	☒	○	
火とパルパークの祭典	☒	○	
森のあったかどんど焼き	☒	○	

自然研究団	☒	○	
プレーヤマダ!	☒	○	
ほたる祭り	☒	○	
ほたる館出張生き物展示	☒	○	
ほたる生態と写真展	☒	○	
ほたる調査	☒	○	
ほたる館情報コーナー	☒	○	
全国ミツバチ大集会	☒	○	
みつばちプロジェクト講座	☒	○	
子どもミツバチ博士講座	☒	○	
節分まつり	☒	○	
鬼ごっこ体験	☒	○	
ドッチボール体験	☒	○	
フライングディスク体験	☒	○	
ワクワクカーニバル（無料）	☒	○	
ギターコンサート	☒	○	
マンドリンみどりのコンサート	☒	○	
山崎真理子秋に歌う	☒	○	
もりもり交流会（無料）	☒	○	
誰でも参加できる生き物講座	☒	○	
5感で楽しむクイズラリー等	☒	○	
防災防犯体験デイ（無料）	☒	○	
親子消防クラブ	☒	○	
防犯体験教室	☒	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ 点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
開園 30 周年記念イベント	☒	○	
山田の森フェスタ	☒	○	
自然観察講座 自然観察ガイド	☒	○	
自然・生き物講座	☒	○	
やまだレンジャープロジェクト	☒	○	
バードウォッチング	☒	○	
薪炭林管理	☒	○	
山田工作道場	☒	○	
竹で学ぼう・竹で遊ぼう	☒	○	
ナチュラル素材のリースづくり	☒	○	
里山焚き火の祭典ツリークライム体験	☒	○	
山田の森ぐらし	☒	○	
もりっ子倶楽部	☒	○	
焚き火を楽しむ	☒	○	
ほたる祭り	☒	○	

ほたる探検ツアー	☒	○	
採蜜体験	☒	○	
初心者限定！みつばち飼育講座	☒	○	
重箱式巣箱づくりワークショップ	☒	○	
巣箱リフターづくりワークショップ	☒	○	
ミツロウづくりワークショップ	☒	○	
水まつり	☒	○	
体力測定イベント	☒	○	
こどもまつり	☒	○	
太極拳教室	☒	○	
ノルディックウォーキング講座	☒	○	
マインドフルネスヨガ	☐	○	
山田シネマ	☐	○	
ワクワクカーニバル（有料）	☒	○	
珈琲テラス	☒	○	
藍染体験とビンテージマーケット	☐	○	
もりもり交流会（有料）	☒	○	
おやこクラブ	☒	○	
バリアフリーフェスティバル	☒	○	
障害者や障害者支援施設による物販	☒	○	
ママフリマ	☒	○	
防災防犯体験デイ（有料）	☒	○	
野営体験教室	☒	○	
自動販売機	☒	○	

<北九州市ほたる館>

企画提案事業	応募時提案 (□にレ 点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
ほたる館のホタル展示と生態展示	☒	○	
マイボタル制度	☒	○	
親子で学ぶホタル講座	☒	○	
山田緑地と連携したホタルプロジェクトの取り組み	☒	○	
山田緑地ほたる祭りとの連携	☒	○	
山田緑地ほたる探検隊の共同実施	☒	○	
市内のほたるの保全団体との連絡	☒	○	
生き物講座	☒	○	
ほたる館ラボ	☒	○	
出張展示	☒	○	
企画展示会	☒	○	

体験型の生き物展示	☒	○	
自主事業	応募時提案 (□にレ 点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
オリジナルグッズ販売	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己 評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。 また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		4
【評価の理由、要因・原因分析】		
令和7年度の山田緑地及びほたる館の指定管理業務については、いずれも施設の設置目的に基づき、指定管理者が提案した事業計画に沿って管理運営を行った。		
<山田緑地>		
①山田緑地は、「30世紀の森づくり」を基本理念とし、指定管理者としては「森の命と人の命が響き合う1000年の森づくり」をコンセプトテーマとし、「利用区域」「保全区域」「保護区域」それぞれの区域特性に応じた管理を適正に行った。特に、令和7年度は芝生管理の自動化せせらぎの水の入れ替えについて、要求水準を上回る管理を実施し、美観と利用の快適性の向上に努めた。また、利用者が山田緑地の自然に親しむことができるよう、生息する生き物の生態を考慮し、細やかな植物管理及び建物等の施設管理を行った。令和7年度は、特に森づくりとして、いのちのたび博物館と連携し、薪炭林管理の間伐作業について、市民参加型での取り組みを開始し、市のネイチャーポジティブ推進や企業の協力を得て、大変好評を得た。また、市と共同でナラ枯れや危険木の撤去に組み、公園入口や駐車場のクスノキ等の強剪定を実施し、利用者の安全管理を強化しながら、適切な維持管理を強力に進めた。		
②利用者の増加を目指す取り組みでは、開園30周年イベントを5月に開催し、全国的に有名な昆虫の専門家を招いた事前観察会やトークイベントを実施するなど、成功を収めた。また、山田緑地のコンセプトに沿った自然観察・環境教育系イベントとして、「もりの観察会」「みつばちプロジェクト」「山田緑地×パルクール・プロジェクト」など、多様なイベントや講座等を実施し、利用者増に結び付いた。大型イベントである「山田の森フェスタ」「やまだワクワクカーニバル」「マ		

マフリマ」などにも積極的に取り組み、新規イベントとして「夕涼みイベント」「どんど焼き」「ビンテージマーケット」等を開催するなど、利用者の大幅増に努めた。さらに、市と共同で実施した「インクルーシブ遊具体験」では、障がい者団体等の新たな利用者層の獲得や、平日利用の増加に結び付いた。

これらの取り組みにより、令和7年度の年間利用者数（95,885人）は、前年度（76,936人）よりも18,949人増加し、市の要求水準（65,000人）、目標値（70,000人）を大きく上回った。

- ③ほたる館とは、「山田緑地ホタルプロジェクト」による連携で、飛翔数や生育環境の調査を行うほか、「夜のホタル探検隊」「山田の森フェスタ」を協働イベントとして実施した。また、山田緑地とほたる館が近いことを利用者に対して積極的に案内するとともに、相互施設での印刷物の掲示・配布や、SNSにおいて相互に掲載記事をシェアするなどの連携を図った。

- ④広報活動については、イベント開催情報等を市政だよりへ月2回掲載するとともに、マスコミ各社へ月1回の情報提供、イベントサイトへの情報掲載、ホームページやSNS（Facebook、X、Instagram）でのタイムリーな情報発信を行うほか、「LINE」の公式アカウントを取得し、積極的な情報発信を図った。

また、開催イベント情報等を紹介する「山田緑地だより」を毎月1回発行し、関連施設への送付や、自治会をとおして各家庭への回覧により情報周知に努めている。また、森の家館内にも掲示し、利用者が自由に持って帰れるフリーペーパーとして常時設置している。

営業活動については、幼稚園や保育園、市民センター、児童館に出向きチラシの配布やPRなど積極的に行っており、現在、南小倉市民センターがグラウンドゴルフや健康ウォーキング等のイベントに利用するなど、来園に繋がっている。また、「SDGs 環境アクティブ・ラーニング」で小学生にパンフレット等を配布するなど、普及・営業活動に努め、家族でイベントに参加するケースも多く見られる。

<ほたる館>

- ①ホタルの幼虫や成虫が光る様子を一年中観察できるよう飼育・展示を行った。さらに、ホタル以外にも様々な水辺の生き物を積極的に展示し、利用者が身近な生き物の生態や生物多様性を学びながら自然環境保全に興味を持てるよう取り組んだ。また、水辺の希少生物の繁殖にも積極的に取り組み、継続的な飼育展示を行った。

- ②自分自身の手でホタルの幼虫を育てる「マイボタル制度」の実施や親子でホタルの生態や北九州のホタル保護を学ぶ「親子で学ぶホタル講座」、様々な生き物をテーマとした「生き物講座」等のイベントや様々な生き物をテーマにした企画展を開催し、施設利用者の増加に努めた。また、船場広場や環境ミュージアム等への出張展示による施設PRにも取り組んだ（延べ 11,125 人が来場）。施設の利用者数は8,531人であったが、出張展示を含めると、要求水準以上の市民と接して施設の魅力を発信しており、前年度より増の施設利用者数となった。

- ③山田緑地とは発行物の掲示・配布などで相互に施設のPRを行うとともに、積極的にほたる館から山田緑地を巡るコースを案内している。さらに山田緑地内のホタル（ゲンジボタル・ヘイケボタル）の飛翔調査や幼虫やエサとなる貝類の生息調査などを協働で行う「山田緑地ホタルプロジェクト」やイベントでは、山田緑地で開催された「山田ほたる祭り」や「山田の森フェスタ」などの主要イベント

で、ほたる館の施設紹介およびホタルの成虫や水辺の生き物の出張展示を行った。

- ④環境教育の場としての施設利用を働きかけるため、ポスターや施設案内チラシ、ほたる館だよりを作成し、市内の小学校や市民センター等に配布した。また、市政だよりへの掲載やマスコミ各社への情報提供、ホームページ、SNS を積極的に活用したイベントや講座などの情報発信を行い、テレビやラジオでの放映、新聞や広報誌への掲載など各媒体へ取り上げられた。

<山田緑地>

(単位：人)

【利用者数】	R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 10 年度 (4 年目)	R 11 年度 (5 年目)
要求水準	58,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
目標値	70,000	70,000	71,000	72,000	74,000	76,000
実績	76,936	95,885	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

<北九州市ほたる館>

(単位：人)

【利用者数】	R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 10 年度 (4 年目)	R 11 年度 (5 年目)
要求水準	10,000	16,000	16,500	17,000	17,500	18,000
入館者数	目標値	15,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	実績	7,664	8,531	—	—	—
出張展示	目標値	—	6,000	6,500	7,000	8,000
	実績	9,521	11,125	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

[評価の理由、要因・原因分析]

<山田緑地>

- ①②③令和7年度の利用者アンケートでは、「大変よい」「よい」が97.3%となっており、目標値の91%を上回った。

園内に設置する「利用者アンケート」「ご意見ノート」や、ホームページの「お問い合わせ機能」など、利用者の声を積極的に集約し、反映するよう努めており、意見・苦情があった場合は、丁寧な対応を心がけ、利用者の意見に寄り添うことはもとより、管理事務所及び関係スタッフと協議し改善に努め、意見・苦情から対応までを「クレーム対応報告書」として管理事務所内で共有している。

アンケートでは「自然が豊かで癒される」「子ども向けイベントが充実している」「芝生が広くて快適」など好評価な意見が多く、利用者の満足度は高い。

- ④行事やイベントの開催情報等について、市政だよりへの掲載、マスコミ各社への情報提供、イベントサイトへの情報登録、ホームページやSNS（LINE、Facebook、Instagram、X）を活用し、情報発信を行った。

さらに、山田緑地内の動植物の情報を季節ごとに随時整理し、園内に自生する植物や生息する生き物たちの情報を入園ゲート、森のゲート、展示ホールなど利用者に目の届きやすい場所に掲示するとともに、森の家の正面玄関付近に設置された掲示版には、最新の動植物の出現情報をお知らせするコーナー「今が見ごろの動植物たち」を設けている。

- ⑤高齢者や車椅子利用者が安全で快適に往来できるよう、森の家の中の展示物やテーブルなどの配置を工夫している。また、動物や昆虫のはく製が中心だった展示施設について、利用者の関心を高めるため、園内に生息するカエルやヘビの生態展示も行った。

こうした取り組みによって、有効回答数408人で令和6年度の97.9%と同レベルの97.3%という満足度を確保している。昨年度より0.6%さがっている要因としては、インクルーシブ等の遊具設置や子ども向けの運動イベント等が、自然観察を目的とした利用者に好まれていないためと考えられる。今後は、遊具等の設置や運動イベントの在り方や意義、方向性を説明していきたい。さらにイベントの際には、生き物の説明をパネル化して設置し、来園者が興味・関心を持てるよう、展示方法にも工夫を施しながら実施していく予定である。

<ほたる館>

- ①利用者アンケートによると、未記入不明を除き「非常に満足」「満足」で100%となっており、利用者の満足度は高い。満足した理由としては「たくさん生き物が見られた」がもっとも多く、印象に残ったコーナーとしては日本産小動物を展示している「出会いと学習エリア」とホタルの発光展示を行う「ホタル生態学習室」が多く選ばれており、ほたる館の強みが生かされた結果となっている。

- ②③④常時アンケート箱を設置して利用者の意見を受け付けることとしており、職員同士で情報を共有し、常に適切な対応が出来るように努めている。また、利用者の意見があった場合には、マニュアルに基づいて適切に対応を行っている。行事やイベントの開催情報については、ほたる館のHPや市政だよりに掲載するほか「ほたる館だより」を作成し、市民センターや各施設へ配布している。また、観光情報誌や子育て情報誌等にも情報を提供している。さらに、SNSやマスコミへの話題提供も行っており、ほたる館の生き物等が新聞、ラジオ、TV等で取り上げられた。

- ⑤利用者にはガイド方式で館内の案内を行っており、アンケートでも好意的な意見が挙がるなど、施設としての魅力や利用者の満足度を高めている。

<山田緑地>

【満足度】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
目標値	96%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績	97.9%	97.3%	—	—	—	—

有効回答数	384 人	408 人				
-------	-------	-------	--	--	--	--

※ ・・・評価対象年度

<北九州市ほたる館>

【満足度】	R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 1 0 年度 (4 年目)	R 1 1 年度 (5 年目)
目標値	98%	91%	92%	93%	94%	95%
実績	100%	100%	—	—	—	—
有効回答 数	232 人	259 人				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

<山田緑地>

- ① 事業費のうち、電力及びガスの単価の値上げで、光熱費が高騰したが、利用状況に応じて照明や冷暖房設備の細やかな操作に加え、需要度の低い照明を外すなどの対応を行っている。当初予算額より 7 9 1 千円ほど増額したが、水洗トイレの水量調節など可能な限り細やかな対応に努め、また消耗品及び役務費を極力節約し効果的、効率的な運営に努めた。最終的には事業費は 2,581 千円減額した。
人件費は、イベント等を多く計画し、対応者の増加や夜間イベントにより予算を 2,818 千円超越したが、おかげで入場者の増加（目標より 25,885 人の増加）及び収入の増大（目標より 1,338 千円の増額）に繋がった。
- ② 施設維持管理に関する経費は、再委託を含め効率的な作業により、費用削減が出来た。
- ③ 経費の効率的な執行により、総支出額は目標額より 3,099 千円の削減が出来た。

<ほたる館>

- ①②電力単価の値上げにより光熱費は増大したが照明等のこまめな消灯や、冷暖房調節と扇風機の併用などにより経費削減に努めたが、展示動物の飼育に要する消耗品費が高騰した結果、431 千円の事業費の増加につながった。
また、植物管理や清掃、工作物の補修等で積極的にボランティアの協力を得るなど、効率的な管理運営に努め、施設の維持管理費は予算額を下回る 367 千円減額となった。

③それぞれの経費削減により、総支出額は目標額より 1,345 千円の削減ができた。

<山田緑地>

(単位：千円)

【支 出】		R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 1 0 年度 (4 年目)	R 1 1 年度 (5 年目)
事業費	計画	11,180	15,689	15,903	16,217	15,422	15,627
	実績	12,175	13,108	—	—	—	—
人件費	計画	22,250	20,426	20,875	20,474	20,928	21,410
	実績	22,011	23,244	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	18,000	20,969	20,644	20,519	20,674	20,969
	実績	20,745	19,714	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	8,095	7,698	7,526	7,932	8,435	7,800
	実績	7,964	7,904	—	—	—	—
一般管理 費等	計画	1,560	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
	実績	1,716	1,320	—	—	—	—
消費税	計画	6,109	6,658	6,674	6,694	6,725	6,760
	実績	2,363	4,851	—	—	—	—
計	計画	67,194	73,240	73,422	73,636	73,984	74,366
	実績	66,974	70,141	—	—	—	—

<北九州市ほたる館>

(単位：千円)

【支 出】		R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 1 0 年度 (4 年目)	R 1 1 年度 (5 年目)
事業費	計画	3,072	3,148	3,149	3,150	3,050	3,050
	実績	3,861	3,579	—	—	—	—
人件費	計画	7,400	7,884	8,140	8,404	8,641	8,749
	実績	7,074	7,002	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	750	1,120	963	862	741	711
	実績	688	753	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	260	426	332	183	182	121
	実績	183	214	—	—	—	—
一般管理 費等	計画	600	360	360	360	360	360
	実績	660	360	—	—	—	—
消費税	計画	1208	1,293	1,294	1,295	1,297	1,299

	実績	733	978	—	—	—	—
計	計画	13,290	14,231	14,238	14,254	14,271	14,290
	実績	13,201	12,886	—	—	—	—

<山田緑地>

修繕工事は、突発的に発生したもので、駐車場ゲートのセンサー故障、森の家のガラス破損がある。森の家の入口段差修繕は、車椅子の出入りに支障が出たため土間コンクリート舗装を行った。

<北九州市ほたる館>

ほたる館の2階女子トイレ洗面器水栓金具の不具合が発生し、取替を行った。また

1階の誘導等が切れたためLED電灯に交換した。

<山田緑地>

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
計画	—	615	615	615	615	615
実績	—	491	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

<北九州市ほたる館>

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
計画	—	197	197	197	197	197
実績	—	193	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

3

[評価の理由、要因・原因分析]

<山田緑地>

①各種イベントの増加やカフェ事業により駐車場等の利用料金収入が9,823(6年度7,781)千円と2,042千円の増額となった。

②③自主事業は、今年度カフェを新設したため設備に予算を多く使用したため、利益が379千円(100%還元)となった。

<ほたる館>

- ①利用料金の設定がない施設であることに加え、各種講座等でも収入を想定していない。
- ②③自主事業は、ガチャガチャ等の販売により 53 千円の収益があり、100%の還元を行った。

<山田緑地>

(単位：千円)

【収 入】		R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 10 年度 (4 年目)	R 11 年度 (5 年目)
利用料金 収入	計画	7,550	7,350	7,650	7,950	8,250	8,550
	実績	7,781	9,823	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	58,150	64,500	64,300	64,100	64,000	63,900
	実績	58,150	64,376	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	1,494	1,390	1,472	1,586	1,734	1,916
	実績	1,328	379	—	—	—	—
計	計画	67,194	73,240	73,422	73,636	73,984	74,366
	実績	67,259	74,578	—	—	—	—

<北九州市ほたる館>

(単位：千円)

【収 入】		R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 10 年度 (4 年目)	R 11 年度 (5 年目)
指定管理 料収入	計画	13,290	14,200	14,200	14,200	14,200	14,200
	実績	13,290	14,196	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	0	31	38	54	71	90
	実績	31	53	—	—	—	—
計	計画	13,290	14,231	14,238	14,254	14,271	14,290
	実績	13,321	14,249	—	—	—	—

<山田緑地>

今年度カフェを新設したため設備に予算を多く使用したため、利益が 379 千円 (100%還元) となった。

<ほたる館>

自主事業においてホタルや水生生物のカプセルトイ等の販売を実施し、53 千円 (100%還元) の利益を得た。

<指定管理業務への収益還元の状況>

<山田緑地>

(単位：千円)

【実績】	R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 10 年度 (4 年目)	R 11 年度 (5 年目)
利益額	1,328	379	—	—	—	—
還元額	1,328	379	—	—	—	—
還元率	100%	100%	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

<北九州市ほたる館>

(単位：千円)

【実績】	R 6 年度 (更新前)	R 7 年度 (1 年目)	R 8 年度 (2 年目)	R 9 年度 (3 年目)	R 1 0 年度 (4 年目)	R 1 1 年度 (5 年目)
利益額	31	53	—	—	—	—
還元額	31	53	—	—	—	—
還元率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

3

[評価の理由、要因・原因分析]

<山田緑地>

- ①管理事務所6名、園地・植栽管理、園内巡視などの技術スタッフ3名以上で業務に対応している。森のゲートの遠隔操作化や、森の家の平日清掃について職員による対応を行うなど、適切な管理運営に努めた。
 - ②様々な研修会やセミナーなどへ積極的に参加し、職員の資質・能力向上を図った。
 - ③開園当初から活動を行っているボランティア団体「山田グリーンネット」は、自然観察、里山づくり、花壇、イベントの4つのグループに分かれ、様々な活動を行っている。令和7年度は、会員数が前年度より10名増加し、65名となるなど、組織の充実が図られた。
- また、会員同士の勉強会の開催や、職員対象の研修への参加など、職員と共に能力向上に努めた。

<ほたる館>

- ①管理運営は基本的に2名体制で行っているが、人員が不足した場合は山田緑地や指定管理者の構成団体から応援スタッフが随時加わる体制となっている。
- ②職員が他の環境型施設（水環境館、到津の森公園等）を訪問することや「北九州ほたるの会」「全国昆虫施設連絡協議会」「九州沖縄動物園水族館飼育者の会」など生き物や飼育技術に関する団体に参加することで、生物の飼育方法や展示レイアウト等について情報交換や意見交換を行うことで資質向上に取り組んでいる。
- ③地元の南丘自治連合会・南丘小学校・南丘市民センターとは緊密に連携し、ほたる館のポスターやほたる館だよりの掲示（南丘市民センター）や2年生生活科や4年生総合的な学習の時間の学習での来館や、児童が描いたホタルの絵を展示したりするほか、学校だよりの掲示（南丘小学校）などを行った。北九州ほたるの会とは役員会・総会に館長が出席し、密に連携を取れる体制を整えている。また、市内外のホタル愛護団体へ幼虫の飼育方法や放流時期・方法などの助言を行っ

た。さらに、市内外の環境型施設と連携し、お互いのポスターやパンフレットの設置、情報交換を行った。また、各施設のイベントでの出展や講師としての参加、企画展での物品貸借などの連携を行った。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
- ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

3

[評価の理由、要因・原因分析]

<山田緑地>

- ①個人情報については、「北九州市個人情報保護条例」に基づき、イベントや講座参加者の名簿などの管理・処理を行った。
- ②③特定の個人や団体の利用を優先しないよう、子どもから成人、高齢者、障害者まで滞りなく利用できるよう管理運営を行った。
- ④施設の管理運営については、管理事務所経理と企業体経理により、収支内容に不適切な点がないかの確認を行った。
- ⑤日常において園内の巡視、建物の設備点検を実施するとともに、随時必要な補修を行い、危険防止に努めた。
- ⑥⑦緊急時連絡表の作成、人員配置を決めるなど連絡体制を整えるほか、緊急時の安全訓練の実施や、事故・災害時に使用する備品等を不備が無いよう点検した。

<ほたる館>

- ①イベントや各種事業で知り得た利用者の個人情報及び職員・ボランティア等の個人情報について、北九州市個人情報保護条例に基づき、管理・処理を行った。
- ②③特定の個人や団体を優先しないよう、子供から高齢者まで、ほたる館を滞りなく利用できるよう管理運営を行った。
- ④実務担当者と企業体経理とで、収支内容に不適切な点がないか再確認を行った。
- ⑤労働安全衛生法に基づき、安全で快適な職場となるよう努めた。また、臨時的な維持管理作業等の区域について、利用者が立ち入らないよう囲いや進入禁止等の措置をとった。
- ⑥⑦定期巡回を毎日行い、危険箇所の点検と防犯の視点で取り組んだ。また年2回、消防訓練（通報訓練・消火訓練・避難訓練）を実施した。

【総合評価】

[全体的な評価・今後の対応等]

<山田緑地>

令和7年度は、開園30周年イベントをはじめ集客が見込める大型イベントや講座等の実施や、新たな企画・開催及び森の家にカフェを新設し、積極的に賑わいづくりに取り組み、知名度向上や利用者・収益の増加につながった。

また、「30 世紀の森づくり」という基本理念に沿って、専門的知見や技術を活かした施設管理の運営を適切に行っており、「山田緑地×パルパークプロジェクト」などの事業や、生物調査やミツバチ飼育講座など、施設の特徴を活かしたイベントの実施に取り組んだ。令和8年度は、これまでの取組をさらに発展させ、「30 世紀の森づくり」の基本理念に基づき、自然環境の保全と利活用の両立を図りながら、山田緑地ならではの魅力を活かした事業展開を進める。

また、開園30周年を契機に高まった認知度や集客効果を継続させるため、自然体験型イベントや講座、森の家を活用した企画等を充実させ、利用者満足度の向上及びさらなる賑わい創出に取り組む。

<ほたる館>

令和7年度も前年度以前より継続している出展展示等での施設の魅力を発信する広報活動や SNS などの活用による効果的な広報を継続的に行い、新規利用者の獲得に努め、ホタルの生体展示や多種多様な水生生物の展示を行い、利用者に付き添う丁寧な案内等で、質の高いサービスを提供し北九州市のホタルや自然環境について発信する事ができた。施設の管理運営を適切に行いながら、ホタルの保護について北九州ほたるの会や市内のほたる愛護団体等とも連携した。ホタルなどの水生生物や水辺環境についての学習施設及び市民の環境保全活動の拠点施設としての役割を担うため、令和8年度以降も中長期的な計画のもと、現在の活動を継続し、施設利用者を増やしていきたい。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。